



【 サムエル記第一 】

2:1 ハンナは祈った。「私の心は【主】にあって大いに喜び、私の角は【主】によって高く上がります。私の口は敵に向かって大きく開きます。私があなただの救いを喜ぶからです。」

2:2 【主】のように聖なる方はいません。まことに、あなたのほかにはだれもいないのです。私たちの神のような岩はありません。

【 一部割愛 】

2:6 【主】は殺し、また生かします。よみに下し、また引き上げます。

2:7 【主】は貧しくし、また富ませ、低くし、また高くします。

2:8 主は、弱い者をちりから起こし、貧しい者をあきたから引き上げ、高貴な者とともに座らせ、彼らに栄光の座を継がせます。

まことに、地の柱は【主】のもの。その上に主は世界を据えられました。」

【 ガラテヤ人への手紙 】

3:14 それは、アブラハムへの祝福がキリスト・イエスによって異邦人に及び、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるようになるためでした。

【 創世記 】

12:1 【主】はアブラムに言われた。

「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。」

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

12:3 わたしはあなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者を呪う。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



「 マリヤの賛美から見るメシア誕生 」

| クリスマス-③ ルカの福音書1:46-55 他 小野寺 望 牧師

【 ルカの福音書 1章 】

46 マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、

47 私の霊は私の救い主である神をたたえます。

48 この卑しいはしのために 目を留めてくださったからです。ご覧ください。今から後、どの時代の人々も 私を幸いな者と呼ぶでしょう。

49 力ある方が、私に大きなことをしてくださったからです。その御名は聖なるもの、

50 主のあわれみは、代々にわたって 主を恐れる者に及びます。

51 主はその御腕で力強いわざを行い、心の思いの高ぶる者を追い散らされました。

52 権力のある者を王位から引き降ろし、低い者を高く引き上げられました。

53 飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせずに追い返されました。

54 主はあわれみを忘れずに、そのしもベイスラエルを助けてくださいました。

55 私たちの父祖たちに語られたとおり、アブラハムとその子孫に対するあわれみを いつまでも忘れずに。」

(4ページへ続く)



◆はじめに ～前回の復習を交えて・・・

| 神の契約とメシアの誕生

1. 「ダビデ契約」の成就である。

- ①前回はダビデ契約に焦点を当てて、メシアの受肉を論じた。
- ②受肉と処女降誕は不可分の関係にある。

2. アブラハム契約の成就でもある。

- ①マタイの系図に女性4人が含まれている意味
- ②信じるすべての人々に、メシアによって霊的祝福が提供される。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| アブラハム契約とクリスマス

*このメッセージは、アブラハム契約の観点からクリスマスについて学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I マリヤの賛美の背景と特徴

1. 賛美の背景

- (1) マリヤは、ナザレを発って、ユダの山地（エンカレムの町）に住むエリサベツを訪問した。
- (2) その理由は、恐らく既に妊娠していたエリサベツと交わり、慰めと励ましを受けようとした。
 - ①老年の彼女（マリヤの叔母）が聖霊によって胎が開かれたことをマリヤは御使いガブリエルから聞いていた。
 - ②エリサベツが宿した子（バプテスマのヨハネ）は、イエスの道備えをし、メシアに起こることを先駆けて知らせる者（先駆者）である。
- (3) マリヤの声を聞くと、エリサベツの胎内で子が踊り、聖霊に満たされてマリヤを祝福する言葉を発した。
- (4) それを受けて発したマリヤの賛美も、聖霊によるものである。マリヤは意識がはっきりした状態で、自らの意思によって賛美した。
 - ①当時は女性にも聖書教育が施され、聖句を記憶していた。

2. 賛美の特徴

- ①サムエルの母ハンナの祈り（1サム2：1-10）を思わせる内容。
- ②詩篇から引用多数。ザカリヤの賛歌と共に「新約聖書の詩篇」と呼ばれるほど。
- ③イスラエル民族の契約にも言及している。
- ④祝福を預言的に歌う：51-53節はヘブル語の未来完了形。
- ⑤聖霊が彼女の聖書知識に働きかけ、素晴らしい賛美ができるようにされた。



II マリヤの賛美の内容

1. 賛美のアウトライン ～マリヤの喜ばしい体験がイスラエルの体験に

- (1) メシアを宿す資格など全くない自分に、このような恵みが与えられたことを心から喜んだ。（46-49節）
- (2) 神の恵み（あわれみ）を普遍化し、誰でも体験できる形で表現する（50-53節）
- (3) 心碎かれた者が受ける神の恵みの根拠は、アブラハム契約である。（54-55節）

2. アブラハム契約とは

- (1) 神がアブラハムと結んだ契約であり、息子のイサク、ヤコブ、そして**イスラエル民族に継承された**。（創12：1-3、出2：24、詩105：8-10）
- (2) イスラエルを祝福するものを祝し、呪う者を呪う。（祭司の民を守る付帯条項）
- (3) 「土地の契約」「ダビデ契約」「**新しい契約**」を含むヘブル的契約。
- (4) モーセ契約と交代した新約（霊的祝福）は、すべての民族が受け取れる。
*信じる者すべてが、信仰によるアブラハムの子孫である。
- (5) アブラハム契約は**聖書を貫く大原則**である。ガラ3：14

III 他の聖句との比較の一例

1. 祭司ザカリヤの賛美（ルカ1：72-73）

- (1) 彼もまた、わが子ヨハネの素晴らしい誕生とアブラハム契約を結び合わせる。
 - ①一度不信仰を通過（口が利けなくなる）して、真理を理解した。
 - ②信仰によって事態を受け入れたマリヤ・ヨセフとは逆の応答である。

2. イエスの誕生に臨むシャカイナ・グローリー

- (1) 神の栄光は、バビロン捕囚を境に、神殿の聖所から、イスラエルから完全に一度消え去った。
- (2) イエスの誕生物語で臨んだ星は、シャカイナ・グローリー（神の栄光）であり、イエス自身がその体の内に、溢れんばかりの栄光を持つお方。
- (3) それは、アブラハム契約が今も有効であり、神が契約の民と共におられることを視覚で認知できるように示している。

◆まとめ：アブラハム契約とクリスマス

1. ガラ3：14

- (1) アブラハムの子孫・・・異邦人信者も、アブラハムに従う者である。
信仰によって、アブラハム契約の祝福に与る者を指す。
- (2) キリストの死は、ユダヤ人を律法から解放するためであった。

2. ラビが持つメシア像（1世紀）：救い主＝主（ヤハウェ）なる神

- (1) マリヤの認識は、一少女に起きた祝福がイスラエルの祝福になる。
- (2) イスラエルへの祝福の、霊的部分は異邦人にも与ることが許される。
- (3) それはアブラハム契約による：異邦人信者にとってもキリストは救いであり神。